

在京石鳥谷 町人会だより

(題字 旧石鳥谷町長 高橋公男氏)

連絡所：在京花巻ふるさと会事務所
〒102-0072 東京都千代田区飯田橋
4-4-8 東京中央ビル 603号
TEL:03-6256-8082 FAX:03-6256-8083
事務局：高橋弘美
〒270-0127 千葉県流山市富士見台
1-10-40
携帯 080-5529-8803



2022年『祝八幡小150周年』田んぼアート 八幡まちづくり協議会

【2022年 行事予定】

11月 6日(日) 令和4年度 在京石鳥谷町人会 総会・親睦交流会
場所： 上野 精養軒



在京石鳥谷町人会HP

ごあいさつ

在京石鳥谷町人会

会長 高橋 弘美



会員の皆様こんにちは。高橋弘美でございます。

この夏は猛暑日の最多記録が更新されたかと思うと、全国各地で線状降水帯が発生し大雨による被害が深刻な状況になるなど気候変動の影響がいよいよ予測不能な状況になったのかと大変心配ですが、そんな中においても皆様におかれましては健康にご留意され、お健やかに過ごしのことと思います。

コロナ禍はついに第7波に突入してしまいましたが政府、自治体からは行動制限が発出されておられません。しっかり感染対策を実施し経済、人の流れもうまく回していこうという段階になりました。我が在京石鳥谷町人会の総会・親睦交流会も令和2年度から2年連続の中止となっていますが、今年こ

そは絶対開催しようと強い決意で準備を進めております。

まずはいつも応援頂いております協賛企業18社様に去る7月ご挨拶訪問させて頂きました。3年振りのご挨拶となりましたのでそれぞれにつもる話があり1社ごとに予定時間がオーバーしてしまいましたが、各社とも今年は総会やるんですか、いや是非やって下さいとの暖かい応援を頂きまして、私からは絶対に開催しますと宣言して参りました。こうした地元企業各社様を微力ながらも応援したいと思い、在京石鳥谷町人会では協賛企業を応援するリーフレット(パンフレット)を作成しました。各企業からのコマーシャルメッセージの他に会員による企業・商品の「押しメッセージ」も記載したものとなっています。このリーフレットを本号の送付に同封いたしました。是非ご覧頂き昔なつかしい商品やちょっと気になる企業が目に留まりましたら、電話番号やQRコードも付加しておりますのでアクセスして帰省の際やお取り寄せなどご利用頂きたいと思っております。是非ふるさと応援に一役買って下さい。

また協賛企業様への訪問と併せて地元のコミュニティ、商工会議所にもご挨拶訪問させて頂きました。各役員さんやご担当の方と親しく情報交換や在京石鳥谷町人会に対する要望などを賜ってまいりました。この時の様子を写真も一緒に本号に載せております。各役員さんの中に知った顔があるかも知れませんね。今後とも一層交流を深めてふるさとと首都圏在住者との架け橋として活発に活動を進めていく所存です。

さて先にも述べましたが今年こそ在京石鳥谷町人会の総会・親睦交流会を開催すべく準備を進めているところです。この「町人会だより」31号の発送に総会・親睦交流会のご案内を同封いたしました。今年の郷土芸能は新堀地区の「さんさ踊り」となっております。是非お楽しみ頂きたいと思っておりますが、これまでと同じような規模と内容で開催できるかどうかは不透明な状況にあります。開催場所の上野精養軒様とよく相談しながら郷土芸能は安全に演舞頂けるようにまた、会員の皆様に向けても万全なコロナ対策を実施してお迎えいたす所存ですので是非ご出席下さります様お願い申し上げます。

前月号にも記載しましたが、一昨年からの「町人会だより」を会員全員(約600名)に送付しています。その効果なのかわかりませんが、うれしいことにここ2年の年会費は前年を上回る方々から振込みを頂いております。多くの皆様からご支援賜っていることに役員一同大きな力を頂いております。深く感謝申し上げます。

引き続き在京石鳥谷町人会の活動へのご協力・ご支援をお願い申し上げます。私のご挨拶とさせて頂きます、ありがとうございました。

在京ふるさと会「大横川さくら周遊クルーズに参加して」 東和町友会 斎藤 美智



コロナも多少減り「まん延防止等重点措置」も解除された3月27日に、今年の幹事さんである在京石鳥谷町人会の企画により行われました。前日の荒れ模様とはうって変わって当日は爽やかな天気になり、皆さんの日頃の行いが良かったものと実感しました。今まで何度か中止になり、今日のこの日をどれだけ待っていた事でしょう。私自身もワクワクした気持ちで参加させていただきました。少し冷たいけど優しい春風に頬をなでられながら日本橋船着き場から12時50分全員検温を済ませてマスクを着用しての乗船となりました。

満潮時からはかなりの時間が経過しているとはいえ、船と橋桁の間が狭く感じられ、橋の下を通るたびに「頭を下げてください」とガイドさんの声が響きました。

大横川は門前中町と越中島の間を流れる川で、川幅が狭いため桜をより近く感じられました。今回の桜は八分咲きでしたが場所によっては満開に近い所もあり、まだ蕾のところもあり、手の届きそうな場所もありました。両岸から咲き誇る桜をまじかに見る、船上からの眺めは最高に優雅で素晴らしい景色でした。

285本の桜の木があるそうですが、ガイドさんのご主人様が歩いて確認したとのエピソードも話されました。周辺はこの時期に合わせて桜まつりが開催され、夜にはライトアップされるそうです。船からカヌーの一団が見えたり遠くにスカイツリーも見えました。



下船の後はレストラン「日本橋イチノイチ」で「江戸切り蕎麦膳」と飲み放題のランチを頂きました。

今回は貸切で他のお客様に気を使うこともなく時間まで談笑を楽しみました、今回企画担当されました関係者の皆様に感謝申し上げます。

これを機会に中止していた行事や活動が再開出来るようになることを願っております。

今回のクルーズは私たちの心の中で忘れる事のない思い出の一ページになりました。

ありがとうございました。

千葉・四街道でバーベキュー交歓会

ロス ポラーチョス

平山 真人



好天に恵まれた5月8日(日)、千葉・四街道市の「東和の郷“こびり笑楽校”」で行われた BBQ & 流しソーメンに私達南米アンデス音楽の演奏グループ「ロス・ポラーチョス」(本誌編集長の上川信行さんがメンバー)は宴の盛り上げ隊として招かれ、焼き肉と美酒を頂きながら皆さんと一緒に歌い、歓談し、大いに楽しみました。

参加したのは在京東和町友会、在京石鳥谷町人会、四街道市岩手県人会の皆さんとポラーチョスの合計22人(内女性8人)。私達は一昨年と昨年、秋の芋煮会に参加していて、今回が3回

目。参加者の皆さんとは顔なじみです。

高橋弘美・在京石鳥谷町人会会長の「このイベントが開催できたのは、この場を提供していただいた蟹澤政志さん(在京東和町友会会長)のおかげです。ありがとうございます！」という“開会宣言”と共にビールで乾杯。肉と野菜が焼けるまでは、蟹澤さんが用意してくれた子メロン(摘果メロン)の塩漬けなどをつつきながらおしゃべり。バーベキューが始まると、箸と皿を持ってバーベキューコンロまでの往



復でにわかに忙しくなります。肉と野菜だけでなく地元のホンビノス貝も。

ほろ酔い気分になったところで、私たちポラーチョスの演奏タイムです。「ポラーチョス」とは「酔っ払い」という意味のスペイン語。ちょうどよいタイミングです。皆さんがよくご存じの「コンドルは飛んでゆく」「花まつり」など6曲を演奏しました。上川編集長の“おねだり”に応じて、皆さんからは過分な“投げ銭”をいただきました。多謝！



テーブルには銘酒がズラリ。「七福神」(菊の司酒造=盛岡市、旧七福神工場は石鳥谷にあった)、「ヒカリノミチ」(川村酒造、花巻市石鳥谷)、そして「八犬伝」(小泉酒造、千葉・富津市)。その飲み比べは至福の時。

すると予期せぬ来客が！な、なんと鈴木陽介・四街道市長です。今年2月の市長選挙で3期務めた現職を大差で破って当選した38歳。「行政の見える化」を公約して若い世代の支持を得ているとか。実は蟹澤さんは鈴木市長の後援会長なのです。蟹澤会長の豊富な人脈をうかがわせました。



次に登場したのは懐かし「流しソーメン」です。10メートルほどの竹といを次々と流れてくるソーメンをすくっては食べ、すくっては食べ…。大の大人も童心に返ったようです。笑楽校にはいろいろな“道具”がありそうです。

最後の仕上げはブランデーでした。意地汚いポラーチョスの面々は、目の前に酒があるとつい手を出してしまいます。それが高級ブランド「カミュ」とあってはなおのこと。これが効きました。足元不如意で転倒する仲間も。帰路は日暮里辺りで飲み直しする予定でしたが、電車で眠りこけて気が付いたら新橋。慌てて下車し、探し当てた居酒屋で反省会をし、この日を締めました。参加された皆さん、お疲れ様でした。そして蟹澤会長、大変お世話になり、ありがとうございました。(了)



「いわて花巻観光物産フェア」IN 大宮 在京石鳥谷町人会 総務 吉田 久美子



「ドキドキ、キタキタ、北東北」JR 東日本観光キャンペーンです。

6月11日(土曜)・12日(日曜)の二日間、「いわて花巻観光物産フェア」が開催されました。

場所はさいたま市大宮駅前にイベント会場「まるまるひがしにほん」があり、花巻市の他に、奥州市、遠野市、平泉町も協賛でした。私は初日に行って来ました。お店の前では花巻の代表的郷土芸能「春日流落合鹿踊り」の勇壮な演舞が11時、13時、15時と3回も披露されました。大宮駅前には太鼓の音が響き渡り、何かと思うような珍しい鹿踊りの装束に立ち留まって観ていました。演舞が終わると皆さん吸い込まれる様にお店に入り、早速買い物です。大自然が育む魅力ある特産品が勢揃いです。買い物かごを片手にあれこれと、好きな物や珍しい物などついつい買ってしまいました。店内には花巻市の半纏を着た市役所の職員の方が多数おり、お客様を案内していました、話しかけやすく、故郷の情報などもお聞きし、お話も出来ました。買い物が終わると一番奥にエンゼルス「大谷翔平」選手の右手が待っていたのです。レプリカですが、黄金に輝く大きくがっしりした右手にしっかりと握手をし、健闘を祈りました。故郷を身近に感じながら楽しい買い物のひと時でした。これからも「いわて観光物産展」や「いわて産直市」等、開催されると思いますが、故郷との交流、楽しいですから皆様、是非是非、足を運んで多めに盛り上げましょう。



第36回在京花巻人のつどいに参加して 在京石鳥谷町人会 広報 上川 信行



令和4年7月9日(土) 東京ガーデンパレスにて第36回在京花巻人のつどい(令和4年度在京花巻人会総会・親睦会)が開催されました。高橋会長、山口副会長、佐藤参与、上川副会長が来賓として出席しました。コロナ対策も少し緩和され昨年の1テーブル4名から1テーブル6名~7名と少し緩和されていました。しかし食事以外はマスク着用なので少し不自由ですが仕方のない事です。参加者は上田東一花巻市長、藤原晶幸花巻市議会議長をはじめとする来賓32名、会員81名総会・親睦会が進められました。



飲食のスタイルはビュフェスタイルではなく、一人ひとり料理が運ばれるスタイルで、通常のレストランでの食事と同じようなスタイルです。飲食もビールは別として、すべてお給仕されるスタイルです。要するに参加者は動かなくて良いスタイルです。ホテル側もそれに対応する為、スタッフを多めに配置し、スムーズな進行に努めていました。

アトラクションでは横浜金津流獅子躍の太鼓の音、ササラが触れ合う音、切れのある動きでホテル関係者、参加者を魅了していました。その後の歓談では少し、お客様同士の移動も増え、コロナ前に戻ったような気もしましたが、まだまだ以前の面影に遠い感じでした。後半は賢治を歌うとゆうことで星めぐりの歌など皆さんで合唱し、メは小原紘一さんによる相撲甚句と3本締めで会を終えました。花巻人のつどいはコロナ収束方向の微妙なタイミングで開催できており、時期の選択が恵まれていると思いました。とにかく人が集まってお互いの無事を確認したり、近況を伝えたりすることは重要だと感じた花巻人のつどいでした。

都会のど真ん中で鹿踊りを

在京石鳥谷町人会 新堀出身 伊藤 精司



去る六月十四日に川村副会長より「七月五日~十日の五日間上野駅中央改札口外グランドコンコースにて『いわて産直市』が開催され、十日(日)のみ八幡から「春日流鹿踊り」が披露されるとのご連絡を頂きました。幼少時代より石鳥谷町や新堀の祭り事には鹿踊りの演舞があり、これ迄の在京石鳥谷町人会にても三度程演舞がありました。当日コンコース会場に少し早目に着きましたが、既に川村副会長が見えておられましたので、ご一緒に産直市の各コーナーの品々を売り手の懐かしい岩手弁を聞きながら演舞開始まで待ちました。当日は町人会フラダンスのメンバーが本番に備えての練習予定日との事でしたが皆さん方も来場しておりました。開始時間を前に演舞者は正座し徐に衣装を身に纏いながら本番に備えておりました。開始時間が刻々と迫っていても観客は疎らでしたが、いざ本番となり太鼓の音がホール一杯

に響き渡るにつれて、観客も興味津々と次第に足を運んで、いつの間にか肩が触れ合う程に大勢集まって頂きました。観客の方々には初めて目の前で演舞者の長いササラを振りながら大きく響く太鼓の音、勇壮な舞は、都会の観客の耳に、胸に強烈に伝わった事と思います。郷里を後にしてから五十数年経ちましたが、今にして都会のど真中で「郷土芸能の鹿踊り」が観られた事がとても深く印象付けられ素晴らしい思い出となりました。

石鳥谷にやっと帰ることが出来ました。 在京石鳥谷町人会 広報 上川 信行

高橋会長、川村副会長と私の3名は令和4年度 在京石鳥谷町人会総会及び親睦交流会開催準備の一環として、石鳥谷町の関係部門、各協賛会社様へのご挨拶及びご協力をお願いの為に7月5日～7月8日にかけて帰省いたしました。石鳥谷町への帰省はこれまで3度計画してきましたがその都度、コロナによる緊急事態宣言が発出され、諦めざるを得ませんでした。今回はコロナ感染者数の減少から拡大の狭間となりましたが無事目的を達成できたと思います。

【7月5日 石鳥谷 CAT】

石鳥谷 CAT は商工会議所 OB メンバーで構成されており、石鳥谷町を盛り上げる活動、情報発信を行っているチームです。(Create 創造し Action 行動する Team チーム)今回は事務局の中野様にアレンジしてもらいメンバーの皆様との交流会を開催して頂きました。

参加者は佐々木直樹会長ほか10名(メンバーは23名)、場所は旧いなむらです。メンバーの皆様は石鳥谷町の商店、事業者、経営者の方々に40代の方々が多く、元気な皆さんです。

在京石鳥谷町人会からは川村副会長、上川が参加し自己紹介、在京石鳥谷町人会の活動紹介。「在京石鳥谷町人会 協賛企業のご案内」リーフレット作成の報告を行いました。このリーフレットを元に「町の商店街の売り上げ拡大」について真剣に討議しました。やる気と情熱の皆さんにお会いでき元気を頂きました。

交流会はコロナ対策の仕切り板が邪魔くさい感じでしたが盛り上がり、なかなか深いお話を聞くことができました。石鳥谷の夜は熱く、長い、やっぱり飲みにケーションはいいなと感じました。

【7月6日 石鳥谷総合支所】

○面談者 支所長:菅原浩孝 地域振興課地域づくり課 課長:佐藤充 主査:菅原健嗣

石鳥谷総合支所を訪問し、石鳥谷総合支所支所長 菅原浩孝様と面談致しました。

お話の中で、草刈りロボットが有り、お掃除ロボットのように区画内を動き周り草刈りをする事ができるとの事で何となく近未来の姿が脳裏に浮かびました。田んぼの大型化も推進しており作業効率の向上や遠隔操縦や自律型作業機器とか実現が近い気がしました。

また例年の8月13日の夢まつり花火大会は3年ぶりに無観客で8月6日に開催されるそうです。

無観客の意味は河原に人を入れない、集まらないように配慮しながら打ち上げるようです。Youtube 配信とかして頂ければ良いかなと進言いたしました。



ところで「枝垂れの梅ちゃん」(30周年記念樹)愛称募集して、愛称決定までしていましたが、その後の授与式はコロナの影響で出来ておりませんでした。支所北口にある「枝垂れの梅ちゃん」少し元気がないような気がしました。枝先を剪定してあり手入れはされているようでした。後日、畠山造園土木様とお会いしてお話を聞きました。植えた下の土壌が固く、それが成長の妨げになっている可能性があり、そこを改善してみるとの事でした。やっぱりこの3年間、誰も訪れる事もなく梅ちゃん寂しかったのかもしれない、梅の実をつけるのはまだまだ先かもしれません。皆さん会いに行ってお励まして下さい。

【7月7日 大瀬川活性会議】

○写真左から→ 副会長:菅原教雄 会長:熊谷秀夫 伊藤真貴子 熊谷敏江



最近の出来事で、「大瀬川たろし滝測定保存会(熊谷幸雄会長)」が2022年度地域環境保全功労者として環境大臣表彰を受賞したとの事でした。(令和4年 6月17日)

たろし滝の測定は1975(昭和50)年が第一回で2022(令和4)年の今年が48回目です。

今までの最高は昭和53年の8mが最高でその年の作況指数112も最高値です。一方、測定不能な年が18回もありました。自然の不思議を感じる「たろし滝」です。

親睦交流会で披露頂いている芸能について、大瀬川地区でも高齢化が進み、踊り手が少なく、また練習の機会を設けるのも難しく、芸能文化の継承が難しくなっているのとおもいました。これは他の地区も同じような悩みを抱えているのではとおもいました。

ZOOM 会議の可否について伺ったところ、花巻市が ZOOM 設備(大型TV等)を各コミュニティに配備したそうです。操作訓練はすこし戸惑いもあるものの何とか接続、会議は出来るとの事でした。これで石鳥谷と東京の距離感は無くなりました。ただ、昭和世代として HA 気持ちを伝えるのは人と人が直接会って話すのが筋だと思っています。

【7月7日 花巻商工会議所石鳥谷支所】

○面談者 支所長:佐藤孝 中野直子

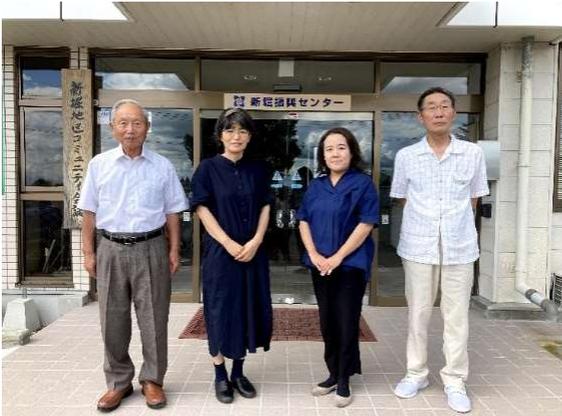


合併を機会に商工会議所も統合され、花巻市と言う大きなくくりの中での花巻市内事業者への事業支援、情報発信を行っており、石鳥谷町単独の事業、イベントに直接関与するのはちょっと「花巻市の商工会議所」の立場上、難しいように受け取りました。ただ逆に花巻市全体の動きについては分かりやすいのかもしれない。

花巻の情報を得る手段として、事業者向けではありますが LINE 公式アカウントによる情報発信がタイムリーで、今風かもしれないとの事でさっそく LINE のお友達になりました。皆さんも試してください。

【7月7日 新堀地区コミュニティ会議】

○写真左から→ 会長:高橋公男 石川永子 藤原久美子 事務局長:佐々木久雄



まず、在京石鳥谷町人会だより30号の表紙写真について伺いました。

撮影場所は大迫に向かう道で新幹線の高架をくぐり、亀ヶ森に向かう山道の入り口あたりと聞きました。たまたま、白鳥が田んぼで、落穂を食べていたので撮影したら、運よく岩手山が良い感じで写ったとの事です。そう言われてもう一度写真を見ると、撮影場所が何となく想像できます。皆さんはどうですか？わかりますか？今年親睦交流会には新堀のさんさ踊りを披露して頂けるそうです。皆さん、楽しみにして下さい。

【7月7日 八重畑コミュニティ協議会】

○写真左から→ 晴山都紀子 会長:大竹佐久子 菊池清子

八重畑小学校にあった土俵が老朽化の為、解体されたそうです。土俵跡地に屋根を支えていた4本の柱で何かモニュメントを作ろうと考えているそうです。また施設は女性の利用者が多く活気があふれていました、おそらく会長の人柄によるものだと思います。コロナでじっと閉じこもってばかりではだめになると家から外にだすアイデアを色々考えているようでなかなか行動的な会長です。また、八重畑コミュニティで八重畑読み聞かせグループ(インブーフ)が製作・管理していた紙芝居をベースに絵本を作ったそうです。読み聞かせなどで使用するほか、公費で作ったので、販売は出来ず、予算内であれば無料配布との事です。皆さん、一度、手に取って見たくありませんか？特に八重畑地域の方は話の内容が分かりやすいとの事です。



【7月8日 八日市地区コミュニティ会議】

○写真左から→ 事務局長:熊谷嘉哉 熊谷美雪 高橋麻美 副会長:熊谷幸雄



八重畑で土俵を解体した話を聞いた後だったので、旧八日市小学校の立派な土俵、相撲が盛んなのかどんな大会があるのか聞くのを暑さのせいで忘れました。最近の八日市の話題はイノシシの農作物被害が深刻なようで電気柵等で防護しているようです。年々、個体が増えているらしいです。

人口は減少傾向なのに様々な野生動物は増加傾向なのですね。西の山から川沿いに降りてきているそうです。私の友人は埼玉県秩父市に住んでいますが、やはりサルによる作物被害が深刻なようです。小規模農家が多く、廃業した家もあるそうです。私もサルと芦ヶ久保駅で遭遇しました。群れで駅の乗降客に食べ物くれなかなと見つめていました。もう全く人間を恐れず、こちらの方が怖くなります。山の食べ物も少なくなり、里の食べ物になれ、里では人が少なく、人との遭遇率も下がり、どんどんいろんな野生生物がやってきそうで恐怖を感じます。

【7月8日 好地地区まちづくり委員会】

○写真左から→ 波柴孝之 会長:藤館茂 事務局長:菊池尚範 岡山和恵

藤館会長から「石中の3年1組藤館だけ覚えてる？」と声を掛けられ記憶を探るが・・・「ごめん俺3年5組」と答えるのがやっとだった。そういえば中学時代、3年は7組？ぐらいまでであったような気がする。現在、石鳥谷では保育園、幼稚園、小学校、中学校等地域にある施設は少子化の影響を受け、存続さえ危うい状況である。そこで好地地区では幼稚園、保育園の統一、石鳥谷駅の東側にある藤原製材所跡地を区画整理し住宅地として売り出し、新たなヤングの街づくりを計画し、進めている。そこが起点となって、広がって行く事を願う。現代は東京一極ではなく、情報はインターネットでどこでも手に入るし、欲しいものもポチすれば手元に届く、在宅ワークが可能なら自然な暮らしが楽しめる石鳥谷の方がより人間らしい暮らしができると思う。



【7月8日 八幡まちづくり協議会】

○写真左から→ 横田由美子 会長:伊藤成子 似内正 葛岡真由美

今年も田んぼアートが綺麗にできましたと。昨日、田んぼアートを見に行ったら、盛岡のタクシーが止まっていた、観光客らしい人達が田んぼアートを眺め、運転手さんの説明を聞いていました。

田んぼアートの鮮やかな黄色と「ハート」「祝」の文字の赤色、細かいところも綺麗に仕上がっています。もう少し成長すればもっと迫力がでると思います。

前回の在京石鳥谷町人会だよりでドローン撮影の写真を頂きました、その話を伺うと葛岡さんのご主人が所有しており、普段は屋根の点検等で使用しているとの事、ドローンも今の時代に合った機械、本当に5年後ぐらいにロボットや自動運転機器などが人間にとって代わるのかもしれない。その時人間はどうなるのかちょっと不安です。また今年の八幡小学校の一年生は10名との事。たった10名？と疑いましたが事実の様です。あんまり心配だから調べてみました。この1年生が6年生になる頃、八幡小学校はあるのだろうか。



R4 児童生徒及び学級数 (R4.3.25)
(中部教育事務所HPより抜粋)

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
大迫小学校	17	16	20	22	19	17	111
石鳥谷小学校	48	38	39	43	42	43	253
新堀小学校	8	16	6	9	16	15	70
八幡小学校	10	19	24	19	23	23	118
八重畑小学校	12	13	15	13	13	14	80
	78	86	84	84	94	95	521
東和小学校	54	52	63	48	49	60	326
大迫中学校	15	17	19				
石鳥谷中学校	80	119	103				
東和中学校	66	60	53				



第32回 石鳥谷夢まつり花火レポート

石鳥谷町 CAT 中野 直子



三年ぶりの開催となった石鳥谷の夏の風物詩「石鳥谷夢まつり」新型コロナウイルスの感染拡大傾向を鑑み、今年は無観客での開催が決定。

そんな中、多くの方に見てもらいたいと言う思いから「石鳥谷情報チャンネル DORIYA」を通してライブ配信を実施。沢山の方々と共に3年ぶりに石鳥谷の夜空に舞う花火を見守ることが出来ました。



令和4年8月6日土曜日。心配されていた雨も上がり、太陽が雲の向こうから顔を出して、良い天気！数発の狼煙が花火の打ち上げ決行を告げました。いよいよ3年ぶりに石鳥谷の夜空に花火が上がります。夢まつり本部を設置した水辺プラザ付近は人通りも少なくひっそり。時々現場を確認に来る車が数台通る程度。無観客開催を認識し決まりを守る町民の真摯な姿勢が伝わります。いつもなら川沿いに行燈が立ち並び、名物の屋台が準備に勤しむ姿など賑やかな光景が見られるはずのこの場所、来年こそは、その風景がここに戻って来ますように…。



ライブ配信は石鳥谷が誇る老舗日本料理店いしどりや新亀家さんの宴会場2階ダイヤモンドホールから配信しました。最後の最後に回線トラブルによりライブが中断してしまいましたが、多くの方にご視聴頂いた上に暖かいコメント、そして300人を越える登録者並びに4000回再生突破・しました。皆様に心より感謝申し上げます。



日が落ちはじめ、花火へのカウントダウンが迫る中、本部では夏の甲子園岩手代表一関学院の試合の行方が気になり、スマホ画面を食い入るように見るスタッフも、そして見事にサヨナラ勝ちで初戦突破！はからずも、祝砲の花火となりました。ライブ配信とは別にビデオ収録も行われ石鳥谷 CAT 会長でもあり花火の副実行委員長でもある佐々木直樹氏が収録の一人目のゲストとして登場！初めは緊張の面持ちでしたが、徐々にほぐれて楽しい掛け合いが出来たようです。

MCはお笑い芸人アンダーエイジ熊谷さん(熊谷由輔・吉本興業所属・石鳥谷町出身)が花火をバックに町民と花火について面白トークを展開！ライブ配信とは一味違った、お笑い要素が詰まった楽しい収録となりました。ライブ配信を実施した YouTube「石鳥谷情報チャンネル DORIYA」で近日公開予定です。

今年は残念ながら無観客での開催でしたが、来年こそはこの場所で皆さんと一緒に花火を見上げる事が出来ますように！



(ホームページも御覧ください！ <https://ishidoriya.hanamaki-cci.or.jp/>)



協賛企業各社のご案内リーフレット作成秘話

在京石鳥谷町人会 役員一同

在京石鳥谷町人会総会・親睦交流会でお世話になっている、協賛企業各社のご案内をこれまでは総会資料の資料に掲載していました。今回はリーフレット形式で作成し、色々な場面で活用できるよう配慮致しました。

事の発端は、「令和4年の総会はやろぞ！」と2月24日、3月15日の副会長会議で総会の開催方法を話し合いました。議題は「コロナの動向、上野精養軒の対応、我々の準備の進め方等」を話し合いました。

結論として「11月6日に上野精養軒でコロナ前と同等の総会・親睦交流会」を実施するとなりました。

進め方として会員の皆様への連絡時期、送付資料をどのようにするかも話し合いました。また資料として、協賛企業各社のPRは総会資料で良いよね？との話があり、いやいや会員600名を有する当会の会員の皆様全員に協賛企業各社からお世話になっている事を知ってもらいたいし、色々な「MADE IN 石鳥谷」製品を知ってもらって、出来れば購入して貰いたいとかなり欲張った企画でリーフレットをつくる事になりました。

3月21日の幹事会でこの計画を提案し了承いただきました。その際、協賛企業各社の「推しメッセージ」文章の作成を役員、幹事をお願いし、割り振りました。最初皆さん「推し」の意味が理解できてなくて商品メニューを羅列する人、自分を推す人等、少し混乱がありましたが、「推す」主旨を理解頂いて、想像ではなく自分の体験に基づいて書いてくださいと念を押しました。すると、すごい事になりました。



「私、〇〇さんに電話してお話を聞きました。そして取り寄せて食べてみました。美味しかったです。」

「〇〇大根、取り寄せました。」「〇〇堂さんに電話しました。〇〇〇を送って貰いました。」

「〇〇豆、オンラインショップで購入してみました。」

ちょうどそのころ浅草で花巻の物産展もあり、協賛企業2社が出品されており「物産展に行って買ったよ！」とか連絡が入るようになりました。それから在京石鳥谷町人会のLINEグループにも物産展やTwitterで仕入れた石鳥谷の情報を流し、石鳥谷の様子を伝えるよう配慮し企画を盛り上げました。

この話を石鳥谷CATの皆さんにも話しました。売り上げに関しては少しかもしれませんが、これがきっかけとなって、広がっていけば、協賛企業各社様に役立つものとなる事を期待しています。今回の在京石鳥谷町人会だより31号に同封してありますので、せめてQRコードを読み取ってその企業のホームページを見て頂けませんか、新しい発見があると思います。宜しくお願い致します。

【 訃 報 】

一昨年まで副会長として大活躍された大竹雅夫氏が8月15日にご逝去されました(享年83)氏は在京石鳥谷町人会設立当初から事務局として会の運営にリーダー的役割を果たされてきました 特に石鳥谷町が合併した後の平成18年以降それまでの町営から会員だけの自主運営となってからは副会長として会を引っ張って頂きました今年開催の「桜周遊クルーズ」と東和町友会開催の「こびり笑楽校」にも参加されお元気なお姿を見せておりましたご逝去される一週間前まで小生と電話で相談し今年の総会開催へのアドバイスも頂いておりましたのに大変残念です 謹んでご冥福をお祈り申し上げます

在京石鳥谷町人会会長 高橋 弘美